

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 1 column: 基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

徹底した感染症対策... 認知症の進行に伴う日々の変化... 遠方に住むご家族の持つ不安や訴えに耳を傾け緊急時対応...

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・コロナ5類移行後も十分な感染対策の下、スタッフ全員の感染予防を徹底し、利用者の健康状態に留意している。
・利用者との交流が疎遠にならないよう、現在は家族との面会は居室で行うことができ、健康状態を把握した上で家族との外出もできている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当する項目に○印). Rows 56-62.

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し行動に繋げることを意識づけていくために毎日の朝礼での唱和を行っている。法人でも理念の実践に力を入れており職員全員が年に1度のペースで研修を受けている。	「一燈園で良かった！」の理念に沿った行動指針を6つ掲げ、毎日の朝礼で唱和し、意識付けをしている。また、達成できているかを月に一度、具体例をあげて話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会長や民生委員、民生児童委員等に連絡をする事で運営推進会議に出席して頂くことが出来ている。組合員にもなっており自治会の催し等へのお誘いもあるが感染予防の点から参加には至っていない。近隣の商店や理髪店の利用、近隣住民との挨拶等に気配りを行っている。	自治会に加入し、コロナ以前には地域の行事に積極的に参加していた。現在はコロナ前に戻つつあるが、利用者の参加にはまだ至っていない。散髪屋や近所の商店には行き、挨拶なども交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症の予防観点から積極的な外部接触が難しい面があり現在は自治会を通じての活動報告、生活、行事報告等を行うに留まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第2回目より自施設での開催を再開。市役所、自治会、地域包括支援センター、ご家族代表の方達と意見交換を行っている。行事報告・事故ヒヤリ報告、活動報告を行い様々な意見を貰うことで運営の参考とさせて頂いている。	2か月に一度、自治会長や民生委員、家族代表、包括職員や市役所からの参加で、事業報告を行い、意見交換をしている。次第や、開示資料、議事録なども整備されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き意見交換や助言を頂くことで連携が図れるよう取り組んでいる。	運営推進会議の報告書を提出し、事故やヒヤリハットの助言を貰い、職員の注意喚起にもつながっている。市の研修会には参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての正しい知識の周知と実践の為に2ヶ月ごとの委員会、年2回の内部研修を行い気づきを持ち意見交換や正しい対応が出来るように取り組んでいる。	身体拘束の正しい知識を職員が理解するように、2か月ごとに委員会を開き、具体例の意見交換を行なっている。「ちょっと待って」ではなく、その場合どう言うのがいいかなど、対応をみんなで話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県・市主催の高齢者虐待防止関連法の研修にオンラインで参加し、それに基づき内部研修を行う事で職員全員が学びを深めた。虐待の芽チェック表を活用し定期的にアンケートを行うことで自身の振り返りや気づき行動に結びつけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県・市主催の研修にオンラインで参加。2ヶ月ごとの委員会、年2回の内部研修を行いすべての職員に伝え学ぶ機会を持っている。成年後見制度を活用する利用者があるため職員は身近に学ぶことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には重要事項説明書や契約書の内容を十分に時間をかけ説明している。家族の疑問や不安にも都度納得の行くよう契約締結後も理解が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催にてご家族代表の意見をお聞きし参考としている。またミニ便りの発行により活動の情報提供に努めると共に面会時や電話連絡において家族の意見を尊重しグループホームの運営に繋げて行けるよう努力している。(ミニ便りに関しては利用者家族より肖像権等使用同意を頂いている)	運営推進会議では、必ず家族の意見を出してもらおうようにしている。また、ふだんの家族との会話の中から、要望を聞き、できることを改善している。コロナ禍で、お誕生日会など家族も参加する行事は現在はないので、家族同士が話し合う機会は少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見を言い合える職場環境作りを努めている。月1回の全体カンファレンス、目標チャレンジ制度における毎月の個人面談等も設け様々な意見を否定せず聞き取りより良い運営の方法を常に模索し実践に結びつける努力をしている。	意見の言いやすい職場環境作りを心掛け、カンファレンスの時間や目標チャレンジの面談で、さまざまな意見を否定することなく聞き、管理者と職員が改善方法を一緒に考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標チャレンジ制度を実施する事で各々が向上心を持ち達成までの過程において日々のコミュニケーションも生まれ個々の努力や実績が自信ややりがいに繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職より勤務年数や能力に合った研修を受ける機会が設けられており法人内外の研修を受ける機会も設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症予防の観点から現在同業者と交流する機会はオンラインでの交流に留まっているが、5類移行に伴い活動が再開すれば多くの職員に勉強会等の機会がありサービスの質の向上に繋がられる様に努めて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の利用事業所や主治医、ケアマネ、ご家族よりの情報を元に本人の想いに寄り添えるようなコミュニケーションに努めることで信頼を得る事が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	先ず、家族の思いをしっかりと聞く事に努め、困りごとや不安な点を明らかにすることで要望に寄り添えるよう納得の行く答えが出るまで話し合いの機会を持つよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険の利用について理解が得られるよう分かりやすい言葉で説明し、今必要な支援は何であるかを本人・家族と相談の上決定し関係機関との連携・調整等柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の利用者を特別な人と捉えず、今あるありのままを受入れ出来る事、したいことを見つけることで共に助け合える空間や環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な出来事でも折に触れ報告や相談を行う事で家族の思いに寄り添い家族の利用者に対する目線を知る事で同じように本人を支えて行けるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ感染予防のため直接誰とも会えるわけではないが手紙での交流や、電話での交流の支援を行っている。	家族や本人の話から情報を得て、利用者との交流のある人を職員間で共有している。現在は、家族以外の面会はまだできないが、知り合いには電話をしたり返信をするなどのお手伝いを利用者と一緒にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性や特徴を見極め利用者同志良い関係が維持できるような工夫、テーブル席の位置・グループ別の生活レクの支援等を行いながら互いが助け合い、孤立することなく生活出来る様に努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	計画終了された後の生活についても相談があれば親身になり相談にのっている。情報提供等も要望があれば詳細に行い次の生活がスムーズに行えるよう協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や本人・家族よりの情報収集に努め本人の望む生活の支援に近づけるよう努力している。	本人とゆっくり話をし、望む暮らしに近づけるよう、情報収集に努めている。困難な場合は家族や多職種の専門員と連携をとり、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中より話題を広げながらこれまでの生活についての情報収集に努めている。これまで利用してきたサービス内容についても施設間での情報提供よりの把握に努め対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時のバイタル測定や日々の気づき、コミュニケーションの中から体調に合わせた対応や残存機能に着目した生きがいのある生活が出来るよう現状の把握に努めている。アセスメントシートの見直しを随時実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気づきを大切に職員間での共有により意見交換をする事で必要な支援内容を考え本人・ご家族・多職種との相談や連携を取りながら介護計画に繋げている。毎日のモニタリングにて状況の把握、評価を行っている。	毎日モニタリングを行ない現状把握に努めている。本人・家族・担当職員で、気になることがあったり、変化があった場合はその都度、見直しを検討する。家族への相談・報告も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化を見逃さず現在の課題となる点を職員間で共有する事で日々の記録に残しケアの実践に繋げ都度結果を話し合うことで次の実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族の状況に応じて柔軟な支援に取り組んでいる。例えば通院、定期受診や郵便物の受け取り、買い物、行政窓口の手続きの代行等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ感染症予防として密になる屋内での行事等には参加できないが、自治会での催し等は定期的に連絡して頂けるよう普段より交流を行っている。近隣商店等の利用を行う事でグループホームの入居者を知って頂けるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の往診と緊急時の相談受診、紹介等をして頂いている。歯科往診、皮膚科、眼科等も家族と相談しながら状態に合わせ柔軟な対応・支援を心掛けている。	協力医の月に一度の訪問診療と、緊急時における受診体制が整備されている。通院は家族が来れない場合は利用者の状態をよく把握している職員が付き添う。家族への前後の報告もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化に気付いた時は速やかにデイサービスナースや訪問看護に連絡・相談する事で助言や指示を仰ぎ病院受診等の目安としている。経過、結果等も必ず報告する事により信頼しあえる関係性の構築に努めている。24時間体制での電話相談も行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員も同行し情報提供を行っている。入院中も定期的に病院やご家族と電話連絡を取り合い退院計画の相談をするなどして連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期指針を作成し全職員で施設の方針を共有できるように意識統一を図っている。またご家族や本人にも希望を早い段階から確認しておくことでいざと言う時に慌てることなく対応出来るようにしている。2・3階フロア合同での看取りの研修を年2回実施している。	希望があれば看取りを行なう。入居時に、終末期におけるグループホームの指針を説明し、文書の取り交わしを行う。段階に応じて、その都度確認をしている。変更も自由。職員の看取りに対する研修を年に2回行って、慌てることなく支援できるように備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時フローチャート、緊急連絡網を掲示各々にも配布し日頃より緊急時対応に備えている。内部研修や訓練を行い適切に医療との連携がとれるよう実践の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月20日に火災時のフローチャート、避難経路、消火訓練、通報訓練、備蓄品の確認しながら利用者と共に防災訓練を実施している。BCP作成に伴い更に現在迄の防災グッズや組織体制の見直し、内容周知等にも力を入れている段階。	毎月1回、職員と利用者が避難訓練を行なっている。災害緊急時の連絡網、市のハザードマップの確認など書類も完備されている。防災グッズや組織体制の見直しなども随時行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が大切にしている事や今までの生活スタイルを理解し尊重している。認知症介護に特化した知識、技術を習得できるよう、内外の研修に参加する機会があり適切なコミュニケーション技術での対応に繋げている。	その人の人格や生活スタイルを尊重し、それに沿ったケアを心がけている。言葉遣いを大切に、利用者同士が愛称で呼ぶことがあっても、職員は「さん付け」で呼んで、年長者へ敬意を払うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の思いに耳を傾け非言語的な要素からも思いがくみ取れるよう、普段から密にコミュニケーションを取り安心できる人間関係の構築にて自身の思いを表出しやすいフロアー作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の趣味や特技等これまでの生活歴をしっかりと把握し一人一人のペースに合わせながら活動の支援を行う事で楽しく寛ぐことのできる環境提供を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容や、近隣理髪店、又は家族の協力を得たりしながら、毛染め カット、ヘアスタイル等本人や家族の意見を取り入れ対応している。毎日の着替えや外出時も本人の好みでおしゃれが出来る様に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂内にキッチンがあり、調理風景や匂いがする事で食に興味を持ち生活感がある。簡単な調理作業の一部のお手伝いを自ら申し出て下さるような場面もある。おやつレクや季節行事、誕生会等メニューもリクエストに応じている。	おかずは法人から配られるが、ごはんと汁物は食堂のキッチンで作り、匂いで食事を楽しみにもしてもらっている。行事食や誕生日のメニューはできる人には手伝ってもらい、キッチンで作る。その人に合わせて手を加え、ミキサー、刻みなどにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアチェック表にて毎食時量、1日の水分量の記入、PC入力にて各々状態把握が出来それに応じた対応を実施している。咀嚼、嚥下等にも合わせた食事形態に気配り素材により形状も変化させることで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行い状態によっては声掛け、一部介助、全介助で対応。口腔内の状態(義歯・残歯)等で歯ブラシの大きさ、口腔スポンジ、歯間ブラシ、口腔テッシュ等を使い分け清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせた声かけや、誘導等実施している。オムツ対応の方はスキントラブルに留意し日中は2時間おき、夜間は睡眠を妨げないようナイト用パットを使用し対応している。	尊厳への配慮から、できるだけ自然な形でのトイレ誘導や声掛けをしている。オムツ対応の人にはスキントラブルにも留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と朝の牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖や食物繊維の摂取を心掛けなるべく自然な形での排便を心掛けている。頑固な便秘の方は排便周期や便形状等詳細を主治医と相談の上、下剤の処方により様子を見ながら細やかに調整等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時、前もって曜日や時間を本人に伝えている。着替えの準備も出来る方は本人の好きな服を選び準備をして頂いたり、石鹸やシャンプーも皮膚状態に合わせ医師の指示を仰ぎスキントラブル予防を留意し種類を分けている。	ほとんどの入居者が、職員の介助や見守りがないと転倒する恐れがあり、広い浴場だがひとりずつ入る。天然温泉なので、拒否の場合も温泉に入りましょうと誘えば承諾することが多く、入浴後は気持ち良かったと言っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活不活発にならない程度に本人の意思に任せ自由に過ごして頂けるように支援をしている。安眠の為の寝具や環境、室内温度、湿度に気配りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の薬品名カードより効果効能、注意事項等をしっかりと読み把握に努めている。特に処方が変わった際や臨時薬が出ている時は状態観察に努め医師との連携に努めている。頓服の服薬時も必ず医師に状態報告してから服薬するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きな生活レクや生活リハを見つけ生活に楽しみややりがいを感じて頂けるよう継続できる範囲の無理の無い時間割で提供している。YouTube等も利用しペットや歌の動画、運動等も取り入れ気分転換を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染予防のため人ごみの中への外出買い物等は出来ないが、月1、2回程程度のドライブで車中よりの景色を楽しんで頂いたり少し遠出をして自然を満喫して頂いたりしている。又、本人の強い希望がある場合はご家族に相談し協力を得られている。	コロナ以後も感染予防のために人ごみの中への外出や買い物などはしていない。月に1、2度のドライブは、人のいないところ以外は車外に出ないが、自然の景色を味わってもらって気分転換になっている。本人が希望して家族と外出することは解禁になった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かり急な受診(診療費)や日用品等は家族の了承を得てから職員が対応している。本人所持の希望がある場合はご家族と相談の上、金額を決め本人に管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時は随時対応している。ご家族や知人より手紙等が届いた際はお礼の電話や手紙等の返信が出来るよう支援し馴染みの間柄が途切れない様気配りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける展示物等に気配り行き、そこから話題を広げられるような空間づくりを心掛けている。又、4S 整理・整頓・清掃・清潔を維持できるようにしている。	毎月写真を撮って、廊下やフロアに掲示している。写真から利用者間で話が広がることもある。フロアは整頓・清潔を維持し、できるだけ季節感を感じるような展示物を飾るようにしている。テーブルの他にも、好きなところでくつろげるように椅子を置いてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各々の性格を鑑みテーブル席を決めている。決まった席を作る事で安心感があり連帯感が生れている。ゲームをしたり行事の際にはテーブルを移動したり、気分により席を離れても寛げるようソファや椅子をおくことで対応出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私室にはご自宅よりの持ち物や本人の興味のあるものを掲示したりし、危険はないかリスク予想をしながら家具の配置等本人の動線等を考慮し気持ちよく安全に生活できるよう工夫している。換気、湿度、消毒等感染症予防も実施している。	家族と相談し、自室で落ち着けるような持ち物や家具を配置している。動線に気をつけて安全に動けるよう、また、本人がフロアにいる時には換気をするなど感染予防にも気をつけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かるように入りに表札を設置して迷うことなく居室と食堂を行き来出来ている。主要部分に手摺がある事で安心して移動が行えている。過度の支援を避け見守りによるさりげなく自尊心を傷つけないような支援を心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490200104		
法人名	社会福祉法人 一燈園		
事業所名	グループホーム大学通り一燈園 3階		
所在地	大分県別府市上人南10組		
自己評価作成日	令和6年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和6年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・新型コロナウイルスの5類移行後も感染防止対策は継続しておりますが、ご家族様の願いでもある元気に穏やかに生活してほしいという思いを尊重し、ご家族はじめ、地域や関係先との関わりの機会を回復していくことで、利用者様に楽しんで頂ける様に努めて居ります。ご利用者様の認知症進行あり本来のグループホームとしての活動は難しくなりましたが、ドライブやレクリエーションを提供し季節を感じて貰えるように努めております。ご利用者様一人一人の個性を尊重しながら安心して穏やかに生活できるように支援を行っております。常に尊敬の念を持ちながら、ご利用者様が自分の家族の様に職員に何でも伝えられる様な関係性を築ける様に接しております。また、医療と連携し利用者様の健康維持が出来る様に、ご家族の協力も得ながら支えられる様に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム大学通り一燈園 2階】に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と行動指針を常に職員の目の届く位置に掲示し朝礼で唱和している。毎日、唱和する事で、理念と行動指針を意識・共有し研修にて理解に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前と同じように面会・行動制限なく家族との交流は出来ている。地域で交流が出来るように地域の行事に参加したりボランティアの受入れ等行いたいと思っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣での買物・散髪・散歩を行い地域住民やご家族に認知症とグループホームの理解をして頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	文書ではなく施設にて運営推進会議を行うことが出来るようになり活動報告が出来ている。参加者からの意見は全体で共有し相談しながらサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き意見交換や助言をいただいている。グループホーム連絡協議会に参加しサービス向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について外部・内部研修を定期的に行っている。職員は身体拘束の弊害を認識し身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について研修・虐待防止委員会を定期的に行い、職員は虐待防止関連法の理解を深めている。委員会ではアンケートを取り自分の行動や施設での言動を振り返り、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度を研修で学んでおり、活用している利用者もおられ職員の制度についての理解もできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書の説明を本人や家族に理解して納得頂ける様に努め、契約後も理解が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・担当者会議・面会時等にて意見や要望を聞き情報共有・相談・実施できるようにし運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケース会議では運営に対する意見・提案を聞き実施出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行動指針にある働きやすい職場環境を目指し日常業務の改善、勤務の調整により、残業が発生しないようにしている。目標チャレンジとして年間・月間の目標をたて各自が目標とやりがいをもち働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員1年目は年間を通して同じ職員が指導し外部研修・法人カリキュラムに沿った内部研修が定期的に行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染症予防の観点から現在同業者と交流する機会はオンラインでの交流に留まっているが、5類移行に伴い活動が再開すれば多くの職員に勉強会等の機会がありサービスの質の向上に繋げられる様に努めて行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートや家族からの情報収集に努め、ご本人を理解・把握する事で不安や要望に応えられるようにしている。 適度な距離感で様子を伺い安心出来る空間作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と情報共有に努め、家族が話し易い環境でコミュニケーションをとりながら要望に応えられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の状況・要望をもとに、必要に応じた関係機関の情報提供や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である高齢者を敬い接し、生活に関わって行く中で利用者の理解を深め信頼していただけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にミニ便りを送付したり面会時に日ごろの様子を報告している。 日ごろの様子や体調等情報を共有する事・話しやすい雰囲気を作り信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所しても今までの生活リズムを崩さず生活が維持できるようご家族の協力が得られている。 今後も維持継続出来るように体調管理・家族との交流に努めたい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流が出来るように食堂の席を配置しADLにあった会話や脳トレと一緒に取り組めるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去される方は関係機関に引き継ぎしている。 必要時、連絡し相談支援につなげている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いを聞き取り把握している言葉にできない方は表情や様子から汲み取り、ご家族との話から把握しサービス計画書を作成している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやご家族からの情報収集 ご本人との会話の中から把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・家族との会話の中から現状の把握に努めアセスメントシートを作成し情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日モニタリングを行い現状把握に努めている。ご本人の要望や希望を理解しその人らしい生活を送るために現状からどのように反映するかをカンファレンスにて話し合いプランを作成実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿った支援を実施し日誌に記録している。毎日モニタリングし支援内容の確認に努め朝礼やカンファレンス、連絡ノートを活用し情報共有に努め、プラン見直しは定期と必要時に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて外泊・外出・病院や美容室、外食に行っている。 外出困難な方やご家族の協力が難しい方は代理で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実習生の受け入れや近隣での買い物・美容室行き交流を続けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医や家族が希望するかかりつけ医での医療を受けられるよう支援している。緊急時は職員が付き添い受診することや医師からの指示をもらえるように連携を取っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	救急時には1階のデイ看護師に相談し指示をもらっている。また、訪問看護ステーションと契約し週一回の訪問、健康管理や相談・助言・対応しており、訪問時には日頃の様子を伝える様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院となると退去することとなるため手術後などは医師・地域連携室と退院後の相談を行っている。入院時には普段の生活状況等情報を医療機関に提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期指針を作成し全職員で施設の方針を共有できるように意識統一を図っている。またご家族や本人にも希望を早い段階から確認しておくことでいざと言う時に慌てることなく対応出来るようにしている。2・3階フロー合同での看取りの研修を年2回実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを確認し研修にて急変時や事故発生時に備えている。 1階にAEDが設置されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者と職員で災害訓練を行っている。(訓練時には避難場所や避難経路の確認) 消防署立会いの防災訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライバシー保護に対する研修を行い理解し意識している。 マナー委員会を毎月設け指導・啓発を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が意思表示が出来るように気配りしている。 言葉にできない方でも表情や様子から意思を汲み取り本人の意向を確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課はあるがペースや体調・気分に合わせて支援している。 その日、その方の希望に応じた支援をしている(新聞・裁縫やパズル等)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服を自分で選べるように準備・支援している。訪問理容を2か月に1回程度利用し身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂にて皆さんと一緒に食事をし食後はお盆拭きや片付け等職員と一緒に取り組んでいる。 食事は嗜好、アレルギー、体調に合わせてランチレクやおやつレク、誕生会では希望を聞き取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取、間食をしている。 ご利用者の嚥下や咀嚼に合った食事形態で提供している。出来る範囲で食べられない物は別メニューにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔の声かけ・支援を行っておりその方にあった歯ブラシ・歯間ブラシ・スポンジ・シート等使用し清潔保持している。義歯は毎晩ポリデントで消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンや行動を見ながら声かけトイレ誘導を行っている。 排泄時は見守り・声かけ・一部介助と段階的に行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では朝のヨーグルト・牛乳、朝食後は廊下歩行と自然排便出来る様に支援している。必要時には医師や看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者、個々の体調やペースに合わせて温泉を楽しんで頂いている。お湯の温度や室温調整を行いリラックス出来る様に支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息や就寝しており寝具も清潔に整えている。 日によってテレビを見たり居室で過ごしたり脳トレをして過ごし安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬の一覧量を作成し職員全体で確認できるようにしており服薬時は二人の職員で日付と名前の確認を行っている。 必要時は医師と連携を取りながら調整を行い情報共有出来る様に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が楽しんで頂けるような行事を計画し実施している(ドライブ・外食・買い物・レクレーション)希望や要望に沿った活動を個人や全体で行う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への買い物・散歩・ドライブ・散髪等機会を作り気分転換に努めている。 家族の協力をお願いし外出出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時にはお預かりしているお金をお渡してできるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など書けるように声掛け支援している。電話や家族に連絡したい利用者へは職員が間に入ってスムーズに会話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間ではくつろいで頂けるような空間づくりに努めており室温調整・換気を行っている。季節感のある壁画や思い出の写真を飾り話題の適用にも役立っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では仲の良い利用者同士で過ごせるように席を配慮している。思い思いに過ごせるように椅子と机を配置し、心地の良い空間づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にも協力して頂き一緒に居室づくりをしている。自宅で使い慣れた家具や思い出の品を飾りゆつくりと過ごせる居室づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して過ごせるような環境づくりを職員間で検討し困難や失敗が生じた時には再度、検討し本人が自立した生活が送れるような環境づくりをしている。		